



とのまるくん
(殿ダムイメージキャラクター)

第49号
2010・1・1

「とのまる通信」

発行：国土交通省中国地方整備局 殿ダム工事事務所 鳥取県鳥取市国府町宮下1221 TEL)0857-29-9570 FAX)0857-29-9612 <http://www.cgr.mlit.go.jp/tono/index.html>

平成21年の 殿ダム建設事業を振り返る

謹んで
初春のお慶びを
申し上げます。

皆様には、平素より殿ダム建設事業の推進につきまして、多大なるご支援、ご協力をいただき厚くお礼申し上げます。さて、昨年の殿ダム建設事業を振り返ってみますと、ダム本体関連では、その本丸ともいへば堤体の盛立工に着手するとともに、カスケード(階段)型減勢方式を採用した洪水吐きのコンクリート打設の進捗を図って参りました。また、試験湛水に備えて、ダム管理設備工事にも着手いたしました。

そして、付替道路関連では、地域住民の皆様の長年の悲願でもございました、県道(主要地方道鳥取国府岩美線)の全線供用開始を図ることができました。

一方、ソフト施策では、将来、殿ダムを活かした水源地域の持続的な活性化を図るために、平成18年3月に策定された殿ダム湖周辺地域「ふるさと再生21プラン」の整備を踏まえ、その利活用や維持管理等の面から実際に行動できる水準に引き上げる検討を行うために、「殿ダム水源地域ビジョン策定委員会」を設置いたしました。

このように、昨年は殿ダムの基本計画に定めるダムの完成予定年度(平成23年度)を見据え、着実に事業を進めていくことができました。改めて、皆様方のご協力に感謝申し上げます。次第でございます。

さて、今年(「寅年」)。語源由来辞典を紐解きますと、「寅」は「引(のびしひく)」「伸(のびす)」と同系の語で、一説では草木が伸びゆく状態を表すと解釈されています。

殿ダム建設事業の一層の促進を願い、職員一同頑張つて参りますので、何卒倍旧のご支援、ご協力を賜りますようお願いいたします。



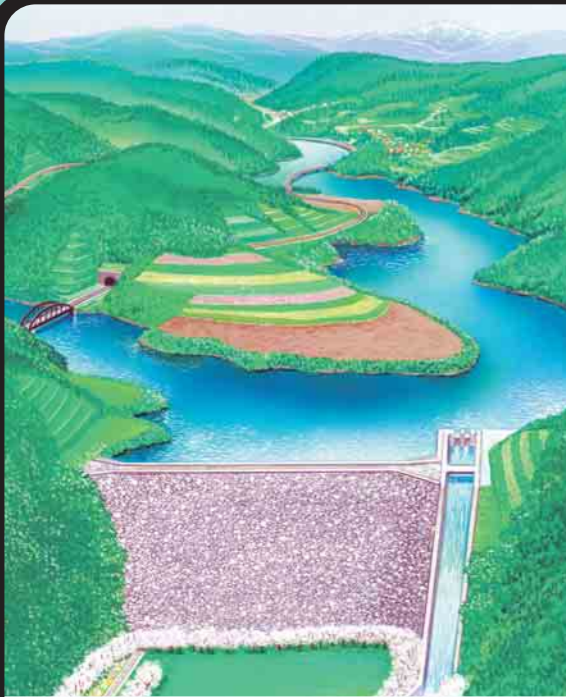
殿ダム工事事務所長
木村克己



下流側よりダム堤体及び洪水吐き(施工中)を臨む(撮影:H21年12月)

殿ダム周辺が

『こうなったらいいな!』をより具体的なものに!



平成18年にとりまとめた 殿ダム湖周辺地域『ふるさと再生21プラン』とは

殿ダムでは、ダム周辺整備として、「水源地域等の地域住民の生活の場の再構築と地域活性化のための実現可能な計画」を目標に、「殿ダム周辺整備計画検討委員会(地区住民代表、学識経験者、行政)」が組織され、約1年半をかけて検討・協議を重ね、平成18年3月に殿ダム湖周辺地域『ふるさと再生21プラン』がとりまとめられました。

この「ふるさと再生21プラン」は、住民アンケート結果も踏まえ、住民に密着した住民のための計画として、2つの基本理念に基づいて作られています。



『ふるさと再生21プラン』の基本理念

★地域住民の目線に立ち無理のない計画としよう!

- ◆地域の連帯を図り、地域特産品の開発と振興等を図りながら、自然と歴史と文化を大切にします。

★地域住民も訪れて来る人々も満足感を共有できる視点での整備を図ろう!

- ◆周辺の自然と集落のたたずまいを借景に取り込み、現状を大切にしながら、地域の成長の度合いに応じた汎用性のある整備。
- ◆ダム湖特有の、河川と湖水面の変化に応じた、親水公園として、広場を中心とした簡素で環境に配慮した整備。



神護集落

平成21年10月に殿ダム水源地域ビジョン 策定委員会を立ち上げました!

殿ダム上下流域の住民を含む、多くの市民に憩いの場として活用していただけるよう、「ふるさと再生21プラン」をもとに、より具体的で詳細な整備計画を実施していくことが求められています。

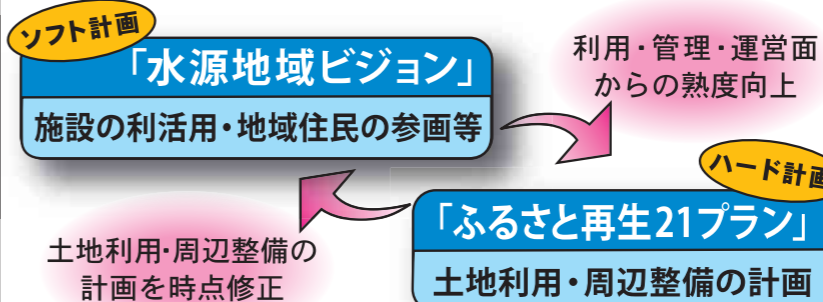
そこで、その行動計画を立案するための組織として、昨年10月に殿ダムの上下流域の住民を代表する関係団体の方や行政関係者を委員とした「殿ダム水源地域ビジョン策定委員会」を立ち上げました。



委員会の様子

ふるさと再生21プランと水源地域ビジョンとの係わり

2つの計画を連動させることで、互いを向上させることができます。

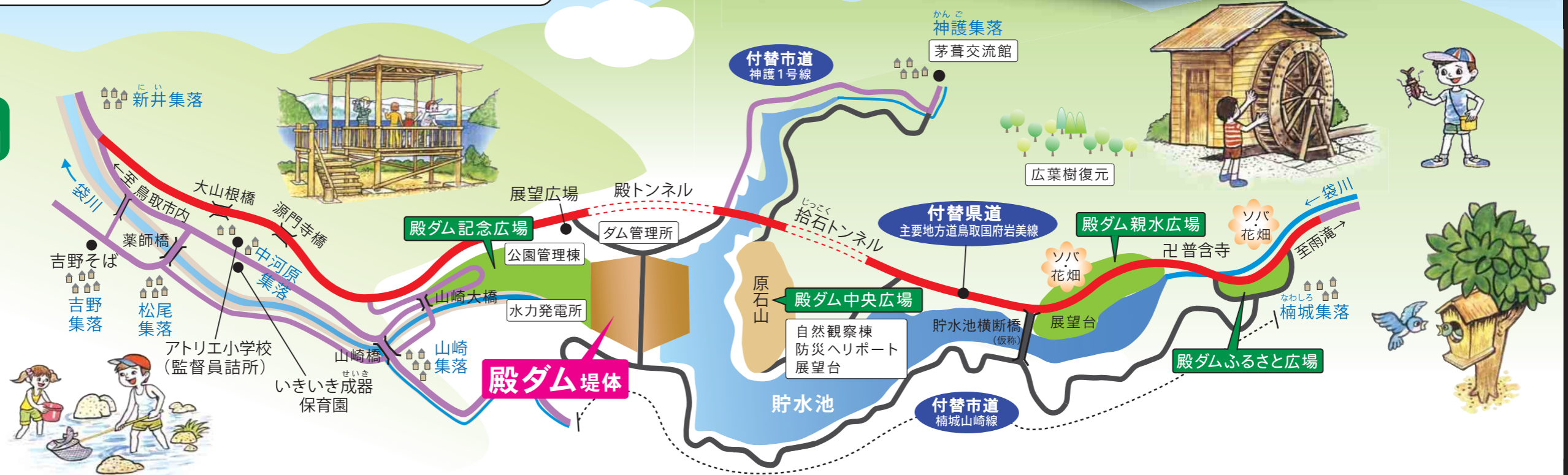


今後、ワークショップを開催したり、アンケート調査を行うなど、多くのご意見を伺いながら、水源地域ビジョンに反映していく予定です。



殿ダム湖周辺 土地利用基本計画図

基本理念を基に、ダム周辺地域の敷地条件やその活用形態を踏まえたゾーニングを行い、そのゾーニングごとに限られた土地の有効利用という観点から、「ふるさと再生21プラン」には、利用施設を配置した「殿ダム湖周辺土地利用基本計画」が位置づけられています。



平成21年5月からダム堤体の盛立工を開始し、現在約4割できています。

ダム堤体の盛立工を昨年5月より開始しました。盛立工は、基礎岩盤の上に土や岩石を何層にも分けて積み上げ、ダム堤体を形造る工事です。工事を進める上ではゾーンごとの材料の品質を確認し、それぞれの箇所にあった機械を使用して締め固めを行っています。工事の節目には良く締め固まっているかどうかなど、各種試験を行い確認しながら工事を進めています。



平成21年
5月

平成21年
12月



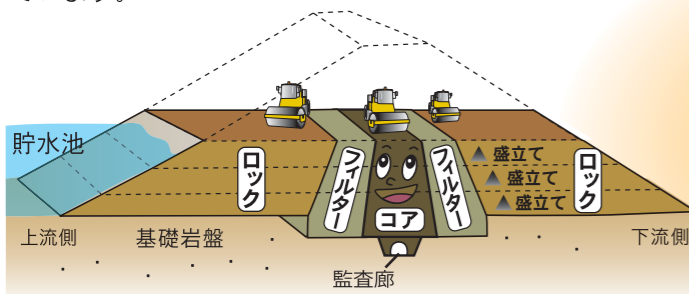
ダム堤体を盛立てる様子



GPS搭載の転圧機で盛立て材料の上を必要な回数以上、締め固めを行います。

堤体は『3つのゾーン』に分かれています！

堤体はロック、フィルター、コアという3つのゾーンに分かれていて、ゾーンごとに違う材料で盛り立てを行っています。



こんな材料を使用しています！



盛立工に関して、詳しくは「とのまる通信第46号」をご覧ください。

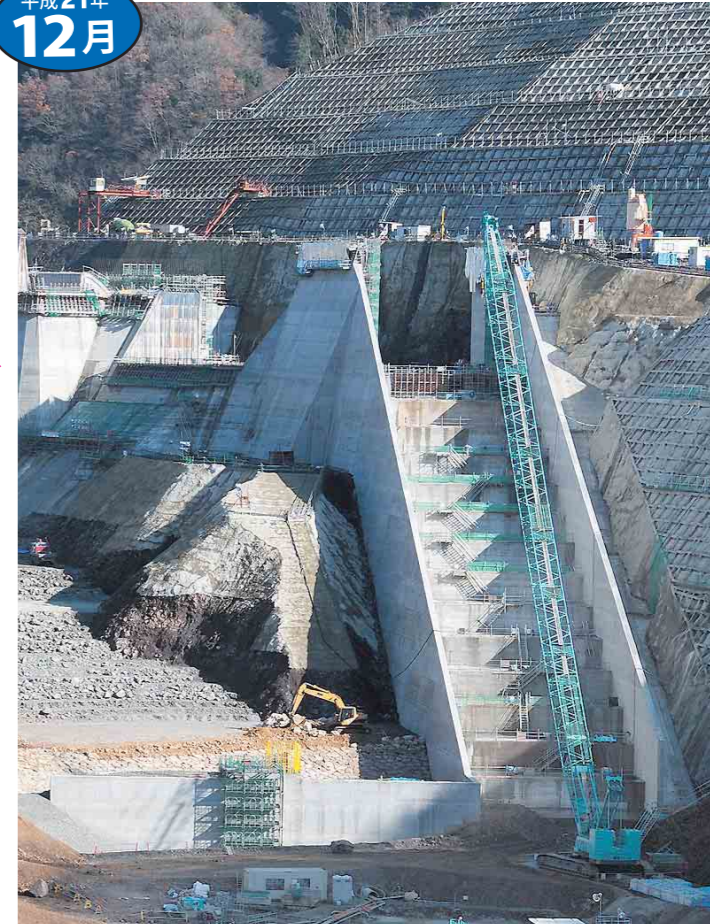
平成20年10月から洪水吐き工を開始し、現在約7割できています。

ダムの主要構造物である洪水吐きの工事は、昨年から本格的に進めており、カスケード(階段)部分について完成する形が見えてきました。洪水吐きとは、洪水の時に貯水池にたまった流水を安全に下流の河川へ導く施設のことです。工事を進める上ではコンクリートの品質を確保するため、細心の注意を払いながら施工しています。

平成20年
12月



平成21年
12月



洪水吐きの施工の様子

洪水吐きに関して、詳しくは「とのまる通信第47号」をご覧ください。

平成21年10月に付替県道(主要地方道鳥取国府岩美線)が全線開通しました！

殿ダム建設に伴う県道の付替工事は、平成11年から開始し、昨年10月に全線開通しました。道路面は凍結抑制舗装を採用したり、堆雪帯の確保や雪崩防護柵を設置し、冬期でも車が安全に走行できるよう配慮しています。

また、付替県道の全線開通により、地域の道路として皆様に利用していただけるだけでなく、災害発生時における救助や緊急物資の供給など、緊急輸送道路としても機能するようになりました。



中河原地区付近

付替県道に関して、詳しくは「とのまる通信第48号」をご覧ください。

定礎石の碑文を国府中学校の生徒のみなさんに考えていただきました



殿ダムの定礎石

定礎石は、建築物の永久堅固と安泰を祈願し、いしずえ(礎)となる石のことです。

地元国府中学校の生徒のみなさんに考えていただき、選考しました。

碑文：『豊かな自然 守る殿ダム』

この碑文には、殿ダムが洪水や水不足からまちを守り、豊かな自然を未来に繋いで欲しいという願いが込められています。

殿ダムウォーキング大会が開催されました

殿ダム周辺を歩き、ダム周辺地域の利活用などについてアイデアを募る「殿ダムウォーキング大会」が11月1日(日)に開催されました。このウォーキング大会は、殿ダム完成後の利活用の方針となる「殿ダム水源地域ビジョン」策定の一環として実施されたものです。

当日は、不安定な天候にもかかわらず、多くの家族連れで賑わい約680人の参加がありました。ウォーキングのルートは、ダム湖に沈む貯水池部分、その周辺にある広場や付替県道を巡るコースが設定されて、参加者には殿ダム周辺地域の利活用などについてのアンケートにご協力いただきました。

ウォーキングのコース途中には大型の重機、コース後半にはダム堤体部分で定礎石を見学することができ、参加者は興味深く見入っていました。

また、ダム堤体の材料に参加者の名前やメッセージを書いてもらい、殿ダムの一部として命を与えるメッセージストーンを作っていました。



作成されたメッセージストーン



周辺の景色や会話を楽しみながら歩く参加者



堤体材料に名前やメッセージを書く参加者



殿ダム展望広場で日々刻々と変化する殿ダム工事現場を見ることができます

昨年5月から盛立工が進み、徐々に殿ダムの姿が見え、刻々と現場の様子が変わっています。また、殿ダム情報室には、袋川の歴史やダム工事に関するパネルも展示していますので、ぜひご覧ください！



殿ダム展望広場

お問い合わせ & お便りのあて先

国土交通省
中国地方整備局

殿ダム工事事務所 とのまる通信編集部

〒680-0151 鳥取県鳥取市国府町宮下1221
TEL)0857-29-9570 FAX)0857-29-9612
<http://www.cgr.mlit.go.jp/tono/index.html>



再生紙を使用しています



大豆インクを使用しています